4. 北茨城「常陸」は古代産鉄民が開いた地

五浦海岸で　砂鉄に出会う

izura0.htm 2003.1.25.　by M. Nakanishi

１月末　例年　袋田の滝が氷結する季節　氷結した滝を見に出かけています今年は家内も行くという。それならば　滝を見て　北茨城の海岸を walk という計画で　車で水戸から久慈川沿いに奥久慈　袋田の滝を見て　修験の山八溝山の麓大子温泉から　山越えして　高萩から北茨城の海岸へ出て北茨城の海岸へ

茨城県の一番南は千葉との県境を銚子に注ぐ利根川　そして　那須三本槍岳　沼原から流れ出て南へ茨城県と福島県境に大きく広がり東西に海岸にまで伸びる八溝山地と栃木県側那須連峰の間を流れ下って水戸・那珂に注ぐ那珂川が有り、そして八溝山からその山地の中央を縫うように南に流れくだり、日立と東海村の境に出る久慈川の三つの大河がある。

久慈川より南側には関東平野が拡がるが、北は八溝山地が福島県境まで広がり、この県境で山も海に落ちる。勿来の関である。

この八溝山地に隔てられ　この山裾に広がった海岸部が常陸国の心臓部。陸国は古代から鉱物資源の豊富な地であり、八溝山塊には古代から豊富な地下資源が眠り、日立製作所発祥となった日立銅山そして久慈川にそった大子の山間には栃原金山があり、金砂郷村の地名が残っている。福島県側常磐には炭鉱が広がる。

又、八溝山が産鉄の民とのかかわりが深い修験の山であることからも　この地と鉱物資源開発との古いかかわりが推察される。

「和鉄・たたら」とのかかわりについては　かくたる話はないが、北茨城を越えて　福島県原町には　古代「たたら」製鉄が栄えたところであり、また南の鹿島地区も同様。

このことからも　この地に産鉄の民が「和鉄」を求めて歩いたことは十分推定される。

太平洋鹿島灘から打ち寄せる荒波が岩を砕き細かい白砂の浜そして　浜砂鉄を堆積させる。

浜砂鉄の宝庫　鹿島地区と福島県原町にはさまれたこの北茨城の海岸にも聞いたことはないが　砂鉄と風がつくる美しい風紋をもった白砂の浜があに違いない。

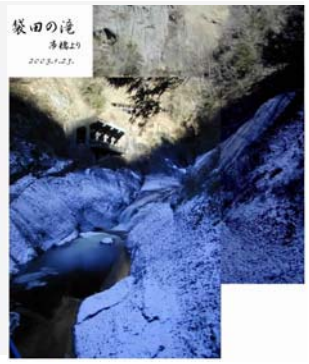
自信はないが　是非一度歩いてみたい土地。

袋田の滝には何度か生きましたが、奥久慈そして北茨城の海岸はあまり意識した事ありませんが、出か

けるつもりで、色々頭をめぐらすとなんとなく「和鉄の道」のイメージが出来上がってきた。
又、この海岸は近代日本画の父　岡倉天心が日本美術院を開き、横山大観らが日本画の製作に励んだ風光明媚な地であり、童謡の野口雨情の故郷でもある。

●　奥久慈　袋田の滝・月待ちの滝

1.25.　朝　レンタカーで家内と二人　柏から那珂 IC を出て、久慈川沿いを大宮を経て袋田へ。昨年も同じ頃　もう少し雪があったように思うのですが、暖かい。　滝は全く氷結していないのでは・・・と思いながら　袋田の滝へ
滝は写真の通り　約 50%凍結。 アイスフォールと言うのには程遠いのですが、真っ白でそれはそれで美しい冬滝の景色



冬　凍りついた袋田の滝　　2003.　1.　25.　　月待ちの滝

袋田滝のすぐ北にある最近売り出しの飛沫浴の滝「月待の滝」から矢祭を経て　北茨城の海岸へ行く計画月待の滝は滝裏に入り込めることもあって　滝のしぶきが舞う環境　マイナスイオン濃度が袋田滝の三倍もあり、健康自然浴が楽しめると言う。
M 氏の研究する水の事がすぐ頭に浮かぶが、まあ　それなりの健康飛沫浴。でも　袋田の滝と異なり人のいない静かな滝でした。
この月待滝から奥　山越えして海岸に行くには　ツルツル　スパイクはいてないと厳しいとの話聞いて、大子の街まで行って再度袋田の滝まで戻って　国道を高萩・北茨城市へ山越。　山中何箇所かは凍っていましたが、たいしたことなく　山越えして　北茨城大津港に出ました。

●　五浦海岸　岡倉天心記念館・五浦美術館へ

五浦海岸の景観　　五浦美術館　岡倉天津記念館とそこからの五浦海岸

大津港から北に高い崖のある小さな岬が見える。五浦岬　この岬の先端に五浦美術館・岡倉天心美術館がある。標識に従って国道を右に曲がり、大津港の漁師街を抜けて、曲がりくねった狭い道を登って岬の先端へ。岬に登りきった所に大きな美術館が雄大な太平洋をバックに立っていました。
美術館より、まず　眼下に北茨城　五浦海岸を見る

この岬から北へ　緑の断崖とその下に狭い白砂の浜が広がる海岸線がまっすぐ広がりその向こうに常磐塩屋埼　全く日本画そのままの世界である。　勿来の火力発電所もぽつりと海越しに見える。
岡倉天心がこの地に日本美術院を開き、有望画家を集めて、ここで製作に励ませた気持ちがわかるような気持ちがします。五浦美術館の中からもよく海岸線が見えように設計されており、この美術館の目的は岡倉天心の記念館とこの五浦の景色をゆったりと見ることである。
お奨めの景色でした。

崖の下に広がる白砂の浜　そして　打ち寄せる太平洋の荒波　この風景は銚子から飯岡にかけての九十九里浜によく似た光景。 浜に砂鉄が堆積しているに違いない。
砂鉄の堆積を確かめるため、浜に下りると波打ち際には　黒い砂鉄が美しい文様を描き、その奥の海岸には厚さ 10cm を越える砂鉄の層が拡がっていました。　予想もしなかった砂鉄の浜でした。
後で知ったのですが、この五浦の海岸は長浜海岸といってかつて「鳴き砂」の浜だったという。

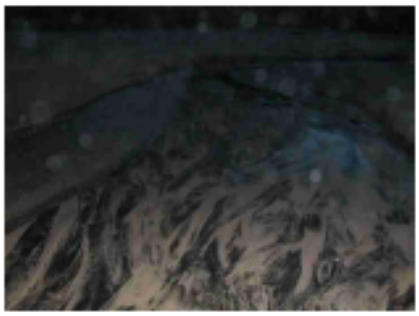
崖が太平洋の荒波で崩され、波にもまれ　磨かれた細かい白砂や砂鉄が浜に打ち寄せられ、寄せては返す波と風により　美しい文様と砂鉄の堆積を作り、また　風に舞うこまやかな白砂が歩く度に「キュッキュッ」となる「鳴き砂」の海岸を作った

家内と二人、打ち寄せくだけちる波と砂浜に描かれた数々の砂鉄の文様に見とれていました。
 波打ち際から少し海岸よりによったところにちょっと一段高くなっている部分があり､そこを少しすくい取るとまぎれもなく砂鉄。　砂鉄の堆積などビックリ。
波の荒い冬の日　寄せては返す荒波が奥深くおしよせ、引く波が砂鉄を残して白砂と共に海へ。それが何年も何年も繰り返され　浜の奥に砂鉄の堆積を作っていった。

北茨城　五浦海岸　　砂鉄の堆積した浜　　2003.1.25.

五浦海岸　浜の奥に堆積した砂鉄層

五浦海岸　波打ち際に見られた砂鉄の文様　　2003. 1 25.



今では　もう　利用する人もなく　ここに砂鉄が堆積していることも忘れ去れようとしている。
でも、古代から中世にかけ、　この砂鉄を求めて多くの人が動き、一緒に文化が伝わっていったろう
地下資源の宝庫　常陸にも　「和鉄の道　」が南から北へ通っていたであろう。
古くは　「たたら」の技術を持った産鉄の民が・・・そして　中央大和政権が蝦夷征伐の命を受けて「たたら」製鉄を始めた人達が・・・・
鹿島灘に面した鹿島・波崎の海岸を一番南に　この北茨城　五浦海岸　そして　福島県原町の海岸等太平洋の荒波が崖を削るこの茨城・福島県の海岸には古代から大量の砂鉄が堆積。また　この海岸から少し山へ入った奥久慈から常磐にかけては　金山など古代からの鉱物資源の地であり、産鉄の民が開いた地と言われている。
また、茨城の北　福島県原町周辺には行方のたたら製鉄遺跡群があり、蝦夷と対抗した大和政権の兵器庫と見られているそんなことを考えると　古代大和政権が蝦夷・東北征伐の原動力として　この常陸国の海岸に堆積した大量の砂鉄を原料にしたたたら製鉄がポイントになった

五浦海岸　平潟港

と考えられないだろうか・・・・・。
真っ暗になまで海岸で遊んで　大津港の街で　これも本場　「あんこう鍋」を味わって帰りました。
美しい海岸と共に思いもかけず、実際に五浦海岸で砂鉄を見ることが出来ご機嫌。

柏に近く　一番身近な常陸国　地下資源豊富な常陸の国
鹿島=常陸　で砂鉄の道を考えていましたが、修験の山
八溝山　山麓に広がる北茨城が本当は古くから開けた鉄の王国でなかったか・・・・
なぜ　もっと早くこなかったのだろうとの思いがしています

後日談になりますが、帰って　柴田弘武氏著　「鉄と俘囚の古代史　−蝦夷征伐と別所−」を開くと常陸鹿島・水戸地域ばかりでなく　那珂川・久慈川流域そして常磐が古くから産鉄の民との関係が深かったことを考証されている。

2003. 2.　2.　柏にて
茨城の和鉄に思いをはせながら

M. Nakanishi